

音楽科学習指導案

大阪教育大学 兼平佳枝

【準備】

- ・柱は七＝ラを基準とし、13 絃全て大まかに平調子に調弦しておく。
- ・爪有り（親指のみ）
- ・2 人で1 面

1. 指導内容：

〔共通事項〕 テクスチャ（旋律の重なり方）と曲想
〔指導事項〕 (3) 創作 ア、イ（イ）、ウ

2. 単元名：旋律の重なり方を意識して《さくらさくら》の対旋律をつくって二重奏で演奏しよう

3. 対象学年：中学校第2 学年

4. 教材：《さくらさくら》日本古謡、対旋律の重ね方を創作する活動

5. 教材について：

【音楽の背景】

桜は日本人にとって春の到来を象徴する花である。我々はつぼみが膨らみ、満開になるのを心待ちにする。しかし、その時期は短く、風や雨でハラハラと散っていき、その儚さも桜の魅力の一つとなっている。そして、子ども達にとっては入学式や卒業式を象徴する花であるともいえる。《さくらさくら》は、江戸時代末期に箏の手ほどき曲『咲いた桜』として作られたものであるが、このような日本の春の風景と共に日本人に根付いた楽曲となった。

日本伝統音楽の特徴のひとつに、伝承の際に時代や社会の変化に応じて変化を遂げながら現在に至るという点がある¹。宮城道雄や藤井凡大等の作曲家をはじめとした多くの作曲家が、この曲をテーマにした《さくら変奏曲》をつくっている。そのような背景からも《さくらさくら》は創作の教材にふさわしいと考えた。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

本単元では、ペアで前半（3～6 小節）と後半（7～10 小節）で主旋律と対旋律を交代し、最初の2 小節と最後の4 小節はユニゾンで二重奏をする中で、表現したい桜のイメージに合うような対旋律を創作させる。主旋律に対して、対旋律は主旋律の1 オクターブ上のユニゾンや和音、裏拍によるカノン、の3 種類から選択することで、旋律の重なり方の違いによる様々なテクスチャについて知覚・感受をすることが可能である。そして、ペアでイメージした桜の様子を表せるように、《さくらさくら》を二重奏で合奏できるような技能を身に付けさせたい。

6. 単元目標・評価規準

評価の観点	単元目標・評価規準	具体的学習場面の評価規準
知識・技能	旋律の重なり方について理解し、イメージが伝わるようにつくって演奏する。	★①旋律の重なり方を意識し、イメージしたことが伝わるようにつくって演奏している。 ★②アセスメントシートに旋律の重なり方についての理解を示している。
思考・判断・表現	旋律の重なり方について知覚し、それらが生み出す特質を感受する。	①旋律の重なり方について知覚し、その特質を感受したことをワークシートに記述している。
	旋律の重なり方を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	★②旋律の重なり方を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫している。 ★③旋律の重なり方を意識し、イメージが伝わる

¹ 小泉文夫(1986)『子どもの遊びとうたーわらべうたは生きているー』草思社, pp.127-129

■対旋律の違い
による重なり方
の違いに気づか
せる。

S3: 今度は桜が散っていく感じになった。

S4: 桜だけじゃなく、別の木もいっぱいあるような感じ

S5: 満開じゃない桜
S6: 台風が通って後の桜

●箏を弾いていない生徒は、演奏と一緒に弦の番号を歌うように促し、交代で演奏させる。

●子どもの発言に応じて楽譜 B も掲示し、再度演奏する。

● 箏を弾いていない生徒は、演奏と一緒に弦の番号を歌うように促し、交代で演奏させる。

七	七
八	八
九	九
八	八
七	七
八	八
九	七
八	六
十	〇
十	五
十	四
十	五
十	六
十	五
十	五
十	四
十	三
十	〇

●聴く活動に集中できるように、クラスを半分に分け、弾く活動と聴く活動を交代できるようにする。

●箏を弾いていない生徒は、演奏と一緒に弦の番号を歌うように促し、交代で演奏させる。

●「どのパターンの重なり方が好きでしたか？」と問い、理由と共に発表させる。

●「こんな風に、主旋律に重ねる対旋律が変わることで、イメージが変わりますね。日本伝統音楽には、伝承しながらも、時代に合うように作り変えていくという特徴や文化があります。《さくらさくら》も昔からいろいろな人が音を重ねたり、リズムを変えたりしながらアレンジされています」と文化的背景とかかわらせて、創作活動につなげる。

為	七
巾	八
柿	九
巾	八
為	七
巾	八
為斗	七
○	六
十	五
九	四
十	五
斗	六
十	五
十九	五
十八	四
○	三

■対旋律のつくり方についての見通しをもたせる。	5. ペアでイメージする桜の様子を表すために、どの対旋律をどの順番で重ねるかを選ぶ。	●「今回の学習では、みなさんにも《さくらさくら》に重ねる対旋律を選んで、《さくらさくら》ペアで合奏してもらいます」と活動目標を伝える。 ●2ペアで4人1組のグループをつくらせる。 ●はじめに、各ペアで表現したい桜のイメージを話し合い、ワークシート①にタイトルを記入する。 ●タイトルに合うような重なりになる対旋律をABC選択する。 ●箏1・箏2のどちらを担当するかについて決めるよう促す。	主体的に学習に取り組む態度①（観察）
■作成した対旋律を含めて、自分のパートが大まかに演奏できるようにさせる。	6. ペアで交代して、自分のパートを通して演奏する。 	●ワークシート①に選択した部分の楽譜を書かせ、自分のパートを通して演奏できるように促す。 ●「しっかり弾き」は常に意識するように促す。	
■二重奏で演奏できるようにさせる。	7. 4人グループで交代しながら、二重奏で演奏する。	●時間を決めてペアで交代させる。	
分 析 旋律の重なり方を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。			
■旋律の重なり方を知覚・感受させる。	8. 対照的なペアの作品を取り上げてそれぞれ感じたことをワークシート②に記入する。	●「今から、○班の二重奏と▼班の二重奏を聴きます。それぞれ対旋律がどんな風に重なっているでしょうか」と伝え、2種の音源を流す（事前に録音しておく）。 ●ここでは対旋律 AB、AC のように前半は同じ重なり方、後半を異なる重なり方を選択しているペアを取り上げる、それぞれ、どんな重なり方をしていたか、それによってどんな感じがしたかをワークシート②に記入させる。 ●状況に応じて数回音源を流す。 ●ワークシート②の内容について話し合わせ、その内容を随時板書し、主旋律が同じでもイメージが異なることを確認する。 ●「こんな風に対旋律の重なり方が違うと、どんな桜の様子がイメージできるでしょうか。ワークシートに書きましょう」と言って再度音源を流す。	思考・判断・表現①（ワークシート②）

■旋律の重なり方について知覚・感受したことを共有させる。		9. ワークシート②に記入した内容を発表し合う。 	●「○班と▼班では、後半の主旋律と対旋律の重なり方がそれぞれ違いますね。このように前半は同じでも、後半に重ねた対旋律が変わっただけで、つなげて聴いた時に感じが変わる。旋律の重なり方の組み合わせが変わると表せる桜のイメージが変わるのですね」のように、用語とかかわらせて確認する。 ●それぞれの重なり方については、生徒の発言を板書し、その発言に応じて高音型、低音型、交互型、のように生徒がわかりやすいように名付ける。
■表現の工夫への手がかりを得させる。		10. イメージを表現するには、さらにどんな工夫ができそうかについて発表し合う。	●板書の中のイメージからわかりやすそうなものをピックアップし「もっと、○○な感じを出すためには、どんな風に弾いたらいいでしょう？」と問い、話し合うように促す。 ●生徒の発言内容に応じて、強弱や速度の変化等を取り上げ、イメージが表現できることを確認する。
再経験	旋律の重なり方を意識して、イメージが伝わるように表現を工夫して《さくらさくら》を二重奏で演奏する。		
■旋律の重なり方を生かして、ペアでイメージしたことを表現するために、演奏を工夫して二重奏をさせる。 		11. ペアで表したいさくらのイメージが伝わるような対旋律の重ね方や表現の工夫を、話し合いながら考え、試す。	●ペアで通して二重奏した時のイメージを交流させ、そのイメージをもとに、タイトルを決めさせる。 ●アイデアが出たら、すぐに弾いて試してみるように促し、決定したものをワークシート③に記入させる。 ●タイトルが決まったら、「ペアで相談しながら、タイトルのイメージが伝わるように重ね方を変えても構いません」と伝える。 ●机間指導をする中で「重ねるパターンを変えたい」等の提案があれば、イメージが伝わるのかどうかを聴いて確認したうえで、さらなる工夫を促す。 ●必要に応じてタブレット端末で録音・再生して確認させる。
			★主体的に学習に取り組む態度③（観察） ★思考・判断・表現②（観察・グループワークシート）

■他のグループのイメージや表現の工夫を知らせる。 ■表現の工夫へのヒントを得させ、意欲を喚起する。	12. 中間発表をする。 S: 花卉が散っていくのがわかるように、交互の対旋律を少し弱めに演奏します。 T: なるほど、みんなはそんな感じに聴こえるかに注意して聞いてみましょう。はい、じゃあ、やってみて。 S: ♪ (ペアで二重奏) T: (聴いていた生徒に) 今のを聴いてどう思いましたか? S: 確かに! T: 主と副の強弱のバランスを考えると工夫もできるのですね。こういう意見も参考にしてみてください。 13. 中間発表によって得たヒントを参考に、さらに自分たちの表現を工夫していく。	●速度や強弱等を工夫しているペアを2～3ペア取り上げて、イメージを言わせてから発表させる。 ●そのイメージが音楽のどんなところから伝わってきたかを交流し、工夫の内容について必要に応じて音楽の言葉で確認して参考できるようにする。  ●発表されたペアも参考にしながら、ペアとして繋げた前奏を完成させるように伝える。	
評価	自分たちの表現を発表し、旋律の重なり方についてのアセスメントシートに答える。		
■旋律の重なり方の特質を生かした表現の工夫を意識させて、ペアで演奏を発表させる。 ■旋律の重なり方の知覚・感受の学習状況を確認する。	14. イメージに合わせて、主旋律と対旋律の音の重なり方を意識して表現を工夫して演奏する。 15. 旋律の重なり方を確認するアセスメントシートに答える。	●それぞれのグループの表現の工夫の違いを意識して聴くよう促す。 ●アセスメントシートを配付し、ペアでイメージした桜の様子と、それを表すためにどんな工夫をしたのかについて記入するように促す。 ●事前に録音済みの曲の途中で旋律の重なり方が変化する2種類の《うさぎ》の二重奏を聴かせる。	★知識・技能① (発表) ★知識・技能② (アセスメントシート) ★思考・判断・表現③ (アセスメントシート)

ワークシート①

《さくらさくら》の対旋律をつくって二重奏で演奏しよう

		第2		第1	
七	七	七	七	七	七
七	七	八	巾	七	七
八	八	九	袖	八	八
○	○	八	巾	○	○
七	七	七	為	七	七
七	七	八	巾	七	七
八	八	八	為	八	八
○	○	○	斗	○	○
五	五	五	十	五	五
六	六	四	九	四	四
八	八	五	十	五	五
七	七	六	斗	六	六
六	六				
五	五	五	十	五	五
○	○	五	十	五	五
○	○	四	九	四	四
○	○	三	八	三	三
○	○	○		○	○

表したい桜のイメージ
桜が「だんだん」と咲いてくるイメージ

() 組 第1..氏名 ()
第2..氏名 ()

ワークシート①

《さくらさくら》の対旋律をつくって二重奏で演奏しよう

第2 第1

七	七	七	七	為	七	七	七
七	七	八	七	中	八	七	七
八	八	九	八	柿	九	八	八
○	○	八	九	巾	八	○	○
			八				
七	七	七	七	為	七	七	七
七	七	八	七	中	八	七	七
八	八	七	八	為	七	八	八
○	○	六	九	斗	六	○	○
		○	八	○	○		
五	五	五	十	十	五		
六	六	四	十	九	四		
八	八	五	十	十	五		
七	七	六	十	斗	六		
六	六		十				
五	五	五	十	十	五		
○	○	五	十	十	五		
○	○	四	十	九	四		
○	○	三	十	八	三		
○	○	○	十	○	○		
			十				

表したい桜のイメージ
さよ 風で 桜が 散っ ている イメージ

() 組 第1 氏名 ()
第2 氏名 ()

ワークシート②

(旋律の重なり) を意識して《さくらさくら》の対旋律をつくって
二重奏で演奏しよう

組 番 名前 ()

- ① 主旋律にどの対旋律が重なっていましたか。前半と後半それぞれに、対旋律 A・B・C の中から当てはまるものを選んで、○印をつけましょう。
- ② 主旋律に対して、対旋律がどんな風に重なっていましたかを書きましょう。
- ③ ②のように対旋律が重なると、どんなイメージや桜の様子が思い浮かんだかを書きましょう。

	7 班 交互型		低音型 14 班 高音型	
A か B か C に○をする	前半 ①・B・C	後半 A・②・C	前半 ①・B・C	後半 A・B・③
重なるから 対旋律がどう	前半はリズムは同じなけれども音が 重なっている。 後半はここに重なっている。		前半はリズムは同じなけれども音が 重なっている。 後半は音が主旋律より高い音で 重なっている。	
桜の様子 イメージや	前半は桜が咲いている感じで 後半は、桜が咲いてまんまるの イメージ。		前半は桜が咲いている感じで 後半は桜が咲いて次々に咲いていく イメージ。	

ワークシート②

(対旋律の重なり) を意識して《さくらさくら》の対旋律をつくって
二重奏で演奏しよう

組 番 名前 ()

- ① 主旋律にどの対旋律が重なっていましたか。前半と後半それぞれに、対旋律 A・B・C の中から当てはまるものを選んで、○印をつけましょう。
- ② 主旋律に対して、対旋律がどんな風に重なっていましたかを書きましょう。
- ③ ②のように対旋律が重なると、どんなイメージや桜の様子が思い浮かんだかを書きましょう。

	7 班		14 班	
A か B か C に○をする	前半 低音型 ①・B・C	後半 交互型 A・②・C	前半 ①・B・C	後半 高音型 A・B・③
重なるから 対旋律がどう	Aの時はきれいに重なって いて、Bの時は段々に 重なっている。		Aの時はきれいに重なっていて、 Cの時は少し音の差があり きれいな重なり方	
桜の様子 イメージや	少しずつ咲いていって いる木のイメージ。		きれいに咲き続けて いる木のイメージ。	

《さくらさくら》の対旋律をつくって二重奏で演奏しよう

第2

第1

七	七
七	七
八	八
〇	〇
七	七
七	七
八	八
〇	〇
五	五
六	六
八	八
七	七
六	六
五	五
〇	〇
〇	〇
〇	〇

七	為
八	巾
九	柳
八	巾
七	為
八	巾
七	為
六	斗
〇	〇
五	十
四	九
五	十
六	斗
五	十
五	十
四	九
三	八
〇	—

七	七
八	八
九	九
八	八
七	七
八	八
七	七
六	六
〇	〇
五	五
四	四
五	五
六	六
五	五
五	五
四	四
三	三
〇	〇

七	七
七	七
八	八
〇	〇
七	七
七	七
八	八
〇	〇

() 組 第1 氏名 ()

第2 氏名 ()

前半は、
後半は、

() なイメージの絵を添えたために、
() なイメージの絵を添えたために、

() という工夫をしました。
() という工夫をしました。

第2

第 1

()	()組
第1..氏名	第2..氏名

前半は（まんかに）味いているよ（う）なイメージの桜を表すために（）力強く、うく
後半は（少し）ずつ枯れているよう（う）なイメージの桜を表すために（）少し弱く、なぐ、ゆくり
（という工夫をしました）
（という工夫をしました）

旋律の重なりを意識して

《さくらさくら》の対旋律をつくって二重奏で演奏しよう

2年 組 番 名前

■自分たちのイメージした桜の様子を表すために、どんな工夫をしたかを書きましょう。

私は (より強い音で)

な桜を表すために

(高音型を選び、より強く)

という工夫しました。

■今から、2種類の《うさぎ》の二重奏を聴きます。それぞれどのような重なり方をしているか○をつけましょう。また、それぞれの感じやイメージを書きましょう。

	A		B	
低音型か交互型か高音型のいずれかに○をする	前半 低音・交互・高音	後半 低音・交互・高音	前半 低音・交互・高音	後半 低音・交互・高音
対旋律がどう重なっているから	きれいに重なっている(前) きれいに音が重なっている(後)		が強く、重なっている。 おどろくほど やさしく重なっている	
うさぎの様子やイメージ	楽しくとびはねている。		月が隠れ、寂しく 悲しくとびはねている。	

実際に子どもが記入したアセスメントシート

旋律の重なりを意識して

《さくらさくら》の対旋律をつかって二重奏で演奏しよう

2年 組 番 名前

■自分たちのイメージした桜の様子を表すために、どんな工夫をしたかを書きましょう。

私は

(はなやか)

な桜を表すために

(高音型を選び、強くはきり、ゆくり演奏する)

という工夫しました。

■今から、2種類の《うさぎ》の二重奏を聴きます。それぞれどのような重なり方をしているか○をつけましょう。また、それぞれの感じやイメージを書きましょう。

	A		B	
低音型か交互型か高音型のいずれかに○をする	前半 低音・交互・高音	後半 低音・交互・高音	前半 低音・交互・高音	後半 低音・交互・高音
対旋律がどう重なっているから	前半は主旋律とバババにワーンが重なっている。 後半は、主旋律より低い音で重なっている。		前半は、主旋律よりワーンが重なっている。 後半は、主旋律より高い音で重なっている。	
うさぎの様子やイメージ	前半は飛びはねている。 後半は、もう秋が終わりかけていかなしくなっている様子。		前半は、みんなもちつきするから集まっている。 後半はうさぎたちが集ま、みんなでもちつきしている様子。	